

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1090100163 | | |
| 法人名 | 有限会社ハンドツーハンド | | |
| 事業所名 | グループホーム「ここあ」前橋 | | |
| 所在地 | 群馬県前橋市朝倉町947-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年2月22日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構 | | |
| 所在地 | 群馬県前橋市新前橋町13-12 | | |
| 訪問調査日 | 平成28年3月8日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>快適に過ごして頂ける様に今年度は、居室、ホール、外装のリノベーションをしました。日当たりも良く。共有スペースは穏やかに過ごせ居室では一人でゆっくり過ごせる空間となっています。</p> <p>医療面では24時間医師との連絡が取れる等の連携体制が整っておりご本人や御家族が希望した場合はターミナルケアも実施しています。</p> |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>職員教育の一貫として、理念をもとに介護観を一人ひとりが記載し、発表し合うことで、統一した介護が出来るよう取り組んでいる。また、利用者別の担当職員制やレクリエーション、壁紙のレイアウト、希望食などの業務担当を決めている。食事においては、1ヶ月に2回の希望食を採り入れ、利用者メニューを考えて、手作り餃子や手作りうどん等を一緒に調理するなかで、利用者の力が発揮できる場づくりを行っている。重度化や終末期においては、家族の希望があれば、医師や訪問看護師等の連携により、最期まで介護できるよう全職員で取り組んでいる。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ホームの理念を職員が何時でも目に付く所に掲示しました。 会議の前に全員で確認意識を高めている。寄り添いを大切にし理念の「あったかい笑顔、声、心」で家庭的で温かい暮らしが出来るよう職員一同取り組んでいる。 | 理念を職員の目のつく場所に掲示し、月1回の会議には確認し合っている。理念をもとに介護観を書き発表し、職員同士で話し合っている。そうしたなか、職員一人ひとりが振り返り、統一した介護が出来るように取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に加入させて頂き行事(夏祭り、敬老会)などに参加させて頂き、利用者地域住民の方と交流が持てた。 | 回覧板で行事などの連絡があり、老人会・自治会の夏祭りにも招待され、席が準備されて地域の方々と交流が行われている。散歩に出かけると、地域の方からも声をかけられ、利用者顔なじみになっている。さらに、園児が散歩中には、事業所へ立ち寄り、利用者との会話がされている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 随時見学者の受け入れている。同時に認知症介護の相談も受け入れている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 今年度は、1回みの会議となってしまう。次年度は、年間予定を立て2ヶ月1回会議を行える様にする。 | 毎日の業務に追われ運営推進会議の開催が、今年度は1回、参加者数も少人数であった。次年度は、年間予定日を立て開催したいと考えている。 | 運営推進会議の年間予定を立て、事前に連絡を行うことや、自治会、民生委員、家族などへの呼びかけを行うことで、参加者が集まるなか、意見交換が行われることを期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市の会議や研修会に参加。困難事例等が合った場合は、電話や訪問で常に相談できる。 | 市の企画である認知症研修に参加したり、地域包括支援センターより入居相談や空床時には声かけや相談を行っている。また、介護保険での更新書類提出には、その都度、市に出向き相談を行っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束の廃止に向け全職員が理解を深め取り組んでいる。言葉使い等も拘束に繋がらない様注意して行っている。身体拘束、接遇等の研修に参加しケアに取り組んでいます。新人職員には入職時のオリエンテーションで説明している。 | 事業所内研修や外部研修に参加し会議で報告し、資料配布で学んでいる。ベットから落ちないようにどうするか、歩きたい人には止めないで一緒に歩き気分転換を図る等、職員全員で問題行為に対してどのようにしたら良いかを考え、拘束をしないケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 会社内、外の研修に参加して関心を深める。社外の研修に参加時に会議などで発表している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している | 研修は行っていないが会議で説明している。現在金銭管理を社会福祉協議会でやってもらう。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所前に施設見学をしてもらっている。契約時には家族に説明を行い、納得して頂いてから契約、解約をしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族で面会の頻度は違いますが、面会時には必ず利用者の状況などを伝える様になっている。全職員が家族との関わりを持つ様にして。家族の方達から相談、意見を言ってもらえる環境を作るよう取り組んでいる。玄関にアンケートとボックスを設置している。 | 玄関に、アンケートボックスを設置している。月1回利用料支払い時に、部屋別の担当職員により家族に生活の様子などを話すなか、家族から意見や要望、相談など気軽に話せる良い関係づくりができています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 意見や不満、苦情を気軽に話せる関係を作る様取り組んでいる。会議などで意見、課題を検討を行い業務に反映している。部屋の担当制や、毎月のレク担当者などを業務に取り入れた。 | 月1回の職員会議や申し送り、1年1回の社長との面談を行い、自由に意見を話せる機会を設けている。部屋別の担当制や業務の担当職員をつくり、提案のなかから餃子づくりや手打ちうどん等を行い、利用者の力が発揮できる場づくりを行っている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人事考課制度を取り入れ年2回行っている。代表者への意見、要望などが伝えられている。目標を立てる事で職員各自の意識の向上があり日々の業務に反映出来て来ている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 社内外の研修に定期的に参加できる様年間計画を立てている。今年度は、新人研修に3ヶ月間のOJTを行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 連絡協議会に加入しており、会議や研修に参加している。研修で他施設との交流も行い意見交換をする様にしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前に利用者との面談をし状況を把握している。 早く施設や職員に慣れて頂ける様に工夫をしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 事前に家族、利用者に会い、話を聞き入所前に施設見学をして頂いている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談の際に必要なとする支援の把握に努めている。満床の場合はお待ち頂くか他のサービス検討への対応もしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員が一方向的にサービスを提供するのではなく日常の中で必要な事も利用者と一緒に、学んだりする関係を築いています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面談時や必要時には状況の連絡をしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 友人、知人の面会時にはゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。お墓参りや自宅への帰省も家族へ協力してもらい定期的に行っている。 地域の訪問美容開設当初から来て頂いている顔なじみとなっています。 | 地域の老人会に出かけている。家族、孫、友人の面会がある。月命日の墓参りには、家族と出かけている。また、日帰り温泉や外食、ショッピングなどに出かけ、利用者から、その当時のことや昔の料理について教えて頂くなか、その当時のことが途切れないような支援を行っている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 活動や季節行事などで利用者同士の関係を把握。利用者が係わり合い孤独しないようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院や退所された場合、ご本人様とご家族の同意を得つつ、他施設や医療機関等へこれまでの生活歴の情報を提供させて頂き何時でも連絡について対応させて頂く事を伝え、相談、支援に努める。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 生活歴、好み、趣味等を本人、御家族より聞き、思い、意向の把握に努めている。意思確認が難しい場合はご家族より意向を伺い、ご本人の思いを会議などで検討している。 | 本人がどう暮らしたいか常に声かけして、安心感を持ってもらい、日常会話のなかから聞き、食事や外出等を生活に反映している。困難な方は、家族から聞き、生活歴を参考に昔の話をしながら表情やしぐさなどから把握するようにして、職員間で共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 事前面談や担当のケアマネさんや医療機関からの情報収集を行い、過去の生活歴を把握し、今後の生活に活かしています。契約時に御家族から無理のない程度に情報を伺いケア向上に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の記録、申し送り等で状況を把握し、必要時には意見交換を行っている。毎月会議で利用者様一人一人の現状を話し合い、日々のケアを利用者様の状況に合わせて行うように努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 計画作成時、会議にて意見交換を行い、ご本人、ご家族より思いを伺い、心身の状況に合わせたプランを作成。職員全体で共有し実践に繋げている。 | 入居後1ヶ月利用者の生活ぶりを見て、ケア会議で話し合い、職員の意見を入れながらサービス計画を作成している。介護サービス計画書を新たに「施設サービス計画書」として作成し、また、利用者の24時間シートを作成して、短期目標を立ててファイルしている。 | 日々の介護に連携できるよう、毎日の記録時に見えるような場所にファイルするなどの工夫や、モニタリングが記録できるような取り組みに期待したい。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | サービス利用時の様子や気付いた事を個々に記録に記入。申し送りや会議等で情報を共有し、実践に活かし介護計画の見直し等に繋げている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 日々の生活の中で、聴かれた意見や要望等を可能な限りサービスの反映できるように努め、必要時には、ご家族に連絡し、本人やご家族の状況でその都度柔軟に対応しようと努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の交番に入居者様表を提出し緊急時の場合でも対応して頂くよう要請。地域住民にも散歩や行事などで認識して頂いている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人やご家族の希望を優先しているが現在は事業者の協力医に全員診て頂いています。月2回の往診の他緊急時には、24時間の対応が可能。 | 月2回協力医の往診に職員が対応し、利用者の状況がわかるよう温度版(体温・脈拍・呼吸・血圧等記録)を用意している。状態変化時には、夜間の対応も行われ、家族にはその都度報告している。介護日誌にも記入し、職員全員が確認印を押して、情報を共有している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職員を配置し、日々の申し送りで状況にあったケアの提案、健康状態、の確認を行っている。家族の意向、主治医の指示を受け状況にあった支援に努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医療機関に情報提供書の提出、必要に応じて電話連絡、訪問を行い、連携を取れるようにしている。退院時はスムーズに受け入れるよう体制を整えている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に看取りについて説明している。ご本人、御家族の希望があれば出来る限り最期まで実施。ご家族のご協力により、医師と職員が連携し5月に看取らせて頂きました。 | 契約時に、重度化した時の対応に係る指針を説明している。状態変化時には、医師との話し合いを持ち、家族の希望があれば看取りの同意書を頂き、あわせて医療連携体制の同意書もあり、往診で点滴等を行いながら、医師、訪問看護、家族との連携のもと、介護できるよう体制をとっている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変、事故発生時のマニュアルや資料定期的に確認している。職員は外部研修、内部研修に参加し、緊急時の心肺蘇生やAEDの使い方は研修に参加し習得している。毎年法人で研修を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練や消化設備の訓練を実施。今年度は職員全員で夜間設定の訓練の行った。緊急時には、近隣住民に協力を要請している。 | 年2回の防災訓練で、昼間・夜間体制で、利用者の避難誘導を職員全員で実施している。近隣の人に声かけをしているが、参加にはいたっていない。事業所は、災害時には地域の避難場所になっている。 | 今後も地域の方々に呼びかけ、一人でも多くの方に参加して頂き、地域との協力体制作りや備蓄の見直しに期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ご利用者様一人ひとりの人格を損ねないように、言葉かけや接し、日々行動や表情を観察。さりげない声掛けを行っている。 | 利用者には、目上の方という意識を常に持ち、日々の対応を心がけている。何かあれば職員間で注意しあう関係作りができています。呼称はさん付けとしている。トイレやオムツ交換時は、ドアを閉め、さらに、カーテンを閉める行為が行われている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自己決定出来る様に働きかけ、意思表示の難しいご利用者様には表情や仕草で読み取れるように観察し支援できる様に取り組んでいる。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの希望や体調、ペースにあった過ごし方が出来るよう支援しスタッフ要因による業務優先にならないように努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 定期的に美容師が訪問。自分に合ったカットをしている。 なじみの美容院に行かれる利用者様もいます。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 毎月担当を決めその月の行事食や誕生日会を行っている。メニューは利用者様と相談して決める。食事の大切さを共有し、食事時間が楽しみになるよう配慮している。 盛り付けや食べやすい様に形態などの工夫をし提供している。 | 業者から食材が届き、職員が調理し、利用者には下拵え・食器拭き等できることをしていただき、月2回の行事食では、利用者と担当職員でメニューを考えて、餃子や手打ちうどん等を一緒に調理し食べている。季節感を感じられる、食事が楽しみなものになるよう工夫している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎食毎の摂取量の記録し適切量が摂取出来ているか把握し、摂取が難しい方は主治医に相談し栄養補助食品の利用好みの食べ物や摂取しやすい形態の食事を提供している。水分は、ポットにお茶を用意してあり何時でも飲める様にしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 内部講習に職員全員が参加している。 毎食後、個々の力を活用した口腔ケアを正しい方法で行い、夜間は義歯の洗浄を行っている。 必要に応じて協力歯科医に相談往診をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄記録で一人ひとりのパターンを把握して、個々の能力を活用できる方法で支援できるよう取り組んでいる。出来る限りトイレでの排泄を継続できる様に排泄表を活用し、排泄の失敗のない様に支援している。 | 排泄記録表にチェックしながら、座位がとれる方や排泄サインがある方には、トイレ誘導を行っている。日中はリハビリパンツ、夜間はオムツの使用と、その方の状況等に合わせ支援している。失禁予防のため、ピンシャン体操を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄表のチェック、水分の摂取を把握し管理している。ヨーグルトを食べたり、ココアを飲んだりと自然に排泄できる様に取り組んでいる。散歩や毎日のラジオ体操で身体を動かしている。排泄困難時は主治医に相談して薬の調整をしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 要望に沿い、気持ち良く入浴して頂けるよう工夫している。入浴表を付け1日から3日に一度入浴できるよう支援している。入浴日でなくとも希望があればその都度対応している。 | 本人の希望時に、入浴できるように心がけている。入浴表で確認しながら、入浴拒否をする利用者には、入浴剤やゆず湯など入浴しやすいタイミング等を見つけ、入浴の気持ちよさを味わえるよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼夜逆転にならないように気配りをし、思い生活習慣の大切にした休息、昼寝が出来る様に支援している。夜間良く休める様に日中の活動も工夫している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の目的、副作用、用法、用量は医師の指導の下理解する様にしている。薬は飲み終わるまで見守る。バイタルチェック表を活用し状況を把握し、主治医に報告出来る様にしている。変化等は記録している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活歴、好み、趣味、を考慮し役割や作業を行い生きがいを持って生活出来るように支援している。(買い物、掃除、調理)散歩やドライブなどで気分転換を図っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | お花の手入れ、天気の良い日は、玄関先ベンチに座り談笑したり、歌を唄ったりしている。定期的にドライブや、買い物へ出かける機会を増やしている。今年度は、入浴施設へ出かけている。利用者様の希望を伺い外食へも出かけるよう支援している。 | 日々の散歩やスーパーへの買い物、外食等を、定期的に行っている。また、初詣や日帰り温泉に出かけたり、自宅への月1回の外泊なども自由に行われたりしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在はお金の所持はしていない。今後自己管理の出来る利用者様がいた場合は自分で使えるように支援をしたい。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があった場合は電話を掛ける事を支援している。手紙を書きたいと希望された方は、職員と一緒に書いている。知人へ年賀状を書いて出しています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間には利用者様が作った季節ごとの壁画を掲示したり、思い出の写真を掲示して、ところが和む空間を職員と利用者様で作っています。 不十分ですが季節を感じて頂ける様にしている。 | 居間には日があたり、天気の良い日はベランダやベンチに出ることで、季節感を感じて頂いている。また、行事食づくりの様子や思い出の写真等を共用場所に掲示して、生活感や季節感を感じて頂けるようにしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールには、ソファを設置したり個々のスペースが確保出来る様にしている。 玄関先にベンチを設置をし自然を感じ、季節を感じながら歌を唄い、談笑し楽しんでいる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅にいる時と同じような感じで生活して頂けるよう使い慣れた家具の持込みを入所時にお願している。 | 今まで自宅で使用していたものを持参して頂き、タンス、机、椅子、衣類等を思い思いに配置している。また、部屋担当の職員が、利用者と共に居室の片づけやモップでの掃除を行い、居心地良く過ごせる工夫をしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレや居室に表札を掲示。混乱や失敗を防ぐよう工夫している。 | | |